



かながわ「福島応援」プロジェクト

かながわ「福島応援」プロジェクト 第12回総会 議事録

【 日 時 】

2023年6月4日（日） 12:30-14:45

【 場 所 】

- (1) 会場： 「新横浜ホール 第1会議室」新横浜 加瀬ビル88 2F
- (2) 形式： 会場およびオンライン（ZOOM）

【 第12回総会 議事録 】

2023年6月4日（日）12時30分～14時45分、
新横浜ホール 第1会議室(新横浜 加瀬ビル88 2F)において、第12回定期総会(以下、「総会」という。)
を、Zoomオンライン会議併用で開催した。

1. 開会挨拶

代表 渡辺孝彦

2. 議長選出

総会は、議長に 東 尚子 正会員を選出した。

3. 議事録作成人ならびに議事録署名人

総会は、議事録作成人ならびに議事録署名人を次のとおり選任した。

議事録作成人：平野 香誉子

議事録署名人：森本 健（押印略、電子氏名記載）

議事録署名人：山下 潔（押印略、電子氏名記載）

4. 総会成立確認

正会員総数 29名、正会員出席者 18名（内、委任状出席7名）

正会員（含む委任）の過半数出席で総会は成立した。議事は出席者の過半数の賛成で承認。

5. 議事（および審議結果）

議案は、一括審議する。

＜第1号議案＞ 2022年度活動報告・会計実績についての審議 [報告：代表 渡辺]

2022年度活動実績、および2022年度会計実績について、渡辺代表が報告した。

＜第2号議案＞ 2022年度監事監査報告／審議 [報告：監事 田村]

2022年度監事報告（事業監査・会計監査）について、田村監事が報告した。

＜第3号議案＞ 2023年度役員異動報告 [報告：代表 渡辺]

2023年度役員異動報告を、渡辺代表が報告した。

＜第4号議案＞ 2023年度活動報告・会計実績／審議 [報告：代表 渡辺]

2023年度活動計画案ならびに収支会計予算案について、渡辺代表が報告した。

《事業3》視察研修について

(2)実施時期：2023年11月19日（土）～20日（日）で計画（仮置）

⇒2023年11月25日（土）～26日（日）に訂正

《事業4》情報発信について補足[矢島]

ぼうさいこくたい関連、神奈川県主催イベント（9月2日（土）～3日（日））

一括質疑・審議

【質疑】

質疑1：〈第4号議案〉《事業5》災害復旧支援について
かながわ災害ボランティア活動支援室や、相模原災害ボランティアネットワークからの支援要請を受けてから、行動するということですか？

応答1：登録団体として要請を受ける以外にも、他に当団体独自の関わりや繋がり、また全社協などからの情報も踏まえ、協力できる災害復旧支援活動をしていきます。[代表 渡辺]

【審議】承認

午後1時3分、全議案は、出席者の賛成過半数で可決承認された。

6. 福島の実況報告

[報告：広報 東]

- ・復興庁が発表している、2023年2月1日現在の全国の避難者数は、約3.1万で、前年4月と比べ4千人以上減り、多くを福島県が占めている状況に変化はない。福島県は、県外避難の宛先不明者に対し、2021年9月から2022年4月にかけて、所在確認調査を実施して、未確認者や登録市町村外への転居者などを、集計範囲外としている影響もあると考察している。
- ・2月1日現在、神奈川県に、東日本大震災から継続して避難している方は1273人。
- ・富岡、大熊、双葉、浪江、葛尾、川内、飯館の各町村の居住者数は、前年よりも1～2%ほど増えている。福島県では、移住政策に力を入れており、帰還者より、移住者が多い傾向にある。
- ・避難指示区域の最近の状況は、富岡、大熊、双葉、浪江、葛尾、飯館で、計画された「特定復興再生拠点区域（復興拠点）」が5月1日で、全て避難指示解除された。この復興拠点とは、帰還困難区域内で、先行して除染などの環境整備を進め、居住できるようにしたエリア。
- ・復興拠点から外れてしまった区域には、6月2日に「福島復興再生措置法」が改正され、「特定帰還居住区域」が新設される運びとなった。帰還希望者の意向に基づいて、各市町村が、復興再生計画を作成する。国の認定を経て、その宅地周辺や道路などの除染を国費で行う。まず大熊町と双葉町で、今年度中に除染作業の着手を目指している

7. 今後の運営・活動へ討議・意見交換

[進行：渡辺]

①体制（役員5名、監事1名の体制を堅持してきた。今後どう進めて行くと良いか。）

・意見・討議集約：役員の数、体制にこだわりはない、というのが多数。ただ、助成金や支援金の申請にあたって、役員5人体制が必須などの条件の場合がある。現在支援していただいている団体の条件も必要に合わせ確認する。活動は他団体と合同でやっていく案も出た、内容によっては可能だが、必要時の状況に応じて対応する。

②報告（記録として残すことが望ましい。会員のマンパワーを最大限に活用して報告書を如何に残すか。今後どう進めて行くと良いか。）

・意見・討議集約：報告書作成の目的と意義を理解しながらも、文書の作成を、負担と感じる会員が多数。そのため、アンケートの質問を工夫したり、写真とコメント形式など、活動参加者と運営側の双方に負担を軽減し、作成を簡便化する方向を含めて進めていく。

③事業（事業1：現地活動、事業2：連携活動、事業3：視察研修、事業4：情報発信（講演会、勉強会）、事業5：災害復旧支援と基本的な事業を行い、計画・実績も取りまとめている。会員のマンパワーを最大限に活用して如何に活動するか。今後どう進めて行くと良いか。）

・意見・討議集約：活動によってメンバーのサポートで運営を続けていくのが、落としどころではないだろうか。

【 第11回総会 議事録 】

8. 閉会

議長は、以上をもって本日の議事を終了した旨を述べ、午後2時45分に閉会を宣言した。
上記議事を明確にするため、この議事録を作成し、議事録署名人が電子記名する。

2023年6月4日（日）

かながわ「福島応援」プロジェクト 第12回総会

議事録作成人 : 平野香誉子 (電子記名、押印省略)

議事録署名人 : 森本 健 (電子記名、押印省略)

議事録署名人 : 山下 潔 (電子記名、押印省略)